

日本精神障害者リハビリテーション学会 第24回長野大会 を終えて

平成28年11月30日～12月2日の3日間、長野市のJA長野県ビルにて精神障害者リハビリテーション学会第24回長野大会が開催されました。当財団の関健理事長が大会長を務め、城西病院が大会事務局となり、財団内施設を含む県内の病院や施設で構成される実行委員の皆様とともに、約1年かけて準備を進めてまいりました。大会当日は学術委員会の皆様にもお手伝いをいただき、おかげさまで、県内外から約700名の方々が参加し、無事に長野大会を終えることが出来ました。ありがとうございました。

この学会の大きな特徴は、講演会や研修セミナー、一般演題発表に加えて、サテライト企画や自主プログラムなど当事者の皆様が参加できる企画が充実しているということです。今年度も多くの当事者の皆様に参加され、フロアホッケーやパネルディスカッションなどのプログラムを通じて、活発な意見交換が行われたそうです。私は裏方で、プログラムにはほとんど参加することが出来ませんでしたので、機会があったら次回は参加者としてこの学会に参加してみたいと思います。

ちなみに、来年は福岡県久留米市で開催されます（久留米市はとんこつラーメン発祥の地とか…）。ご興味を持たれた方は旅行も兼ねて参加されてみてはいかがでしょうか？

城西病院 臨床心理部 長岡浩子



太陽光発電設備設置事業

城西病院第9ビル屋上に太陽光発電設備を設置しました。この設備を設置することによって、地球環境の保全に努め、再生可能エネルギーの普及を目指します。規模は10kwで、その時間の発電量は第7ビルの受付の横にありますモニターよりご確認いただけます。



いつも
優しく
Always be tender

平成29年 新年ごあいさつ

社会医療法人城西医療財団 理事長・総長 関 健

皆さんあけましておめでとうございます。本年もよろしくお願いたします。

今年は、酉年です。トリ年のイメージキャラクターはニワトリで、干支の置物もニワトリです。ニワトリは飛びませんので、飛翔とか飛び立つといった前向きなイメージはありません。尤も世界中には何千種類というニワトリがいて、長年月をかけて品種改良されてきたのだといわれています。ニワトリの先祖は赤色野鶏（せきしょくやけい）であるとされており、今でも東南アジアの密林にいて、十数メートルは飛ぶことができます。鳴き声や尾の長さが珍重される観賞用、卵を採るための品種、食用、研究実験用、等人間の営みにとって欠かせない家畜です。

皆さんはどんな酉年を考えておられますか。

さて、今、医療・介護の世界は、30年問題と言って、その有様が大きく変わろうとしています。地域医療ビジョンと第7次地域（保健）医療計画（本県では長野県地域保健医療総合計画）、及び次期診療報酬・介護報酬同時改定（平成30年）、この3つの施策が関係しあって、今後の高齢社会を見据えて、我が国の厚生行政が変貌するのです。その時に備えて、当城西医療財団及び七つの鐘は、方針を立てなくてはなりません。

先ず、地域医療ビジョンでは、病床機能分化の問題に直面しています。精神科中心の豊科病院及びミサトピア小倉病院、また、白馬及び小倉の診療所の医療には当面大きな変更は求められていません。影響を受けるのは城西病院です。平成29年度には、収支状況の改善を図るべく、回復期リハビリテーション病棟の病床を現在の30床から45床にします。相対的にACU病棟は15床の減少になります。精神科病床では、急性期治療病棟を立ち上げます。その際、病棟を1ビル及び7ビルの2階に移動します。その関係で、療養病床（ECU）は、2ビルの1、2、3階に移動します。その理由の一つが、慢性期病床（当院では医療療養：72ECU、介護療養：1ビル2階ECU）に対する国の施策が未だ不透明だからです。平成30年3月に介護療養病棟及び25：1医療療養病棟を廃止し、新たな3種類の機能（病床でないものも含まれる）に転換させるべく政策誘導しているのです。社会保障審議会医療部会での審議で決定されたことではありますが、現実には、簡単にいかないと多くの医療機関からの反発があり、30年3月には新制度への移行は不可能で、介護療養病床も当面残る可能性があります。病院の病床を有料老人ホームにする類型も居室の面積などに大幅な緩和措置が必要との見解もあります。様子を見ながら城西病院の2ビルの4階は有料老人ホームに衣替えすることも、考えております。

次に、第7次長野県地域保健医療総合計画及び次期診療報酬・介護報酬同時改定は、まだ十分な情報がありません。いづれも今後の病院経営にとって大きな影響がありますので、判断を誤らぬよう職員一丸となって対応していく必要があります。陣容を整え、いざ出陣という時を迎えました。職員並びにご利用者の皆様のご理解・ご協力をお願いいたします。

「城西医療財団 理念」

私達は、病める人、障害を持つ人にいつも優しく、最良の医療サービス及び福祉サービスを一体的に提供する。また、心身の健康保持・増進を志向する人に最良の保健サービスを提供する。利用者を身体的、精神的、社会的、そして倫理的に診療し、科学的根拠に基づいた治療を行う。

城西病院 PCU小児科病棟特集



多床室



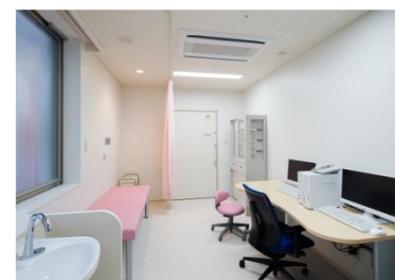
個室



屋上テラス



スタッフステーション



診察室



3Fプレイルーム

小児科病棟では、新たな取り組みとして12月より障害福祉サービスを利用した短期入所事業を開始しました。福祉の面からもサポートしていくことでより多くのご家族のご要望に応える事ができると考えております。（ご利用を希望される場合、詳細はメディカルソーシャルワーカーの宮崎までお問い合わせください。）
これからも患者様、ご家族からの貴重なご意見を参考によりご利用頂きやすい病棟になるようスタッフ一同精進していきたいと思っております。また、より多くの方にPCUのことを知っていただき、PCUが地域で生活する障害児（者）、及びご家族の安心に繋がる存在になれるよう信頼をつないでいきたいと考えております。病棟見学等は随時行っております。



城西病院PCUは平成27年6月に開設した小児科病棟です。県内の高次機能病院から在宅に戻る際の受入れや在宅重症心身障害児（者）のレスパイト入院、家族の不調や冠婚葬祭時等の折りの一時預かりを行っております。また、登校困難や神経発達症の方も精神科医と連携し支援しております。石田修一医師を中心に看護師・保育士、総勢17名が勤務しており、患者さん、ご家族が安心して過ごせるよう医療・介護・療育を提供しております。

開設から現在までに90名の方が利用され、年齢は0～38歳、気管切開・人工呼吸器・経管栄養など医療依存度の高い方から、経口摂取可能で歩行出来る方まで、年齢も障害の程度も様々な方が利用されています。その方の成長発達やニーズに合ったケアを提供し、患者様・ご家族が安心・満足して利用して頂けることを目標に日々取り組んでいます。また、楽しい時間・心地よい時間をもてるよう保育士を中心に療育活動にも力を入れ活動しています。

季節を感じられる装飾や心地よい音楽、患者さんの笑い声が響いており、とても明るい雰囲気の病棟です。また、行事への参加を楽しみに利用される方もいらっしゃいます。



クリスマス会の様子①



クリスマス会の様子②



クリスマス会の様子③



ロゴマークは、「S」と「PCU」の文字をモチーフに病院理念の配色を参照し、子どもらしい元気なイメージのカラーで構成されています。

9th BLDG
Shironishi Hospital